

【オリヴィエ・ドーガ・セレクション】

OLIVIER Dauga selection



■ オリヴィエ・ドーガ氏について

1964年にボルドー近くのリブルヌに生まれ、ラグビー選手として活躍。チームの会長の縁で、シャトー・ソシアンド・マレで葡萄の扱いからワイン造りなどを学びました。瞬く間に才覚を発揮し、1988-92年は同シャトーで技術部長、1992-99年にシャトー・ラ・トゥール・カルネで総支配人、1999-2000年にシャトー・ラ・トゥール・デュ・ビィで技術部長を経て、2000年にコンサルティング会社ル・フェジュール・ド・ヴァンを設立。現在は30を超えるボルドーのクライアントをはじめ、南仏ラングドックやウクライナなどにも活躍の場を広げています。

「私は、生産者の表現を助けるためにあり、ワインは、ワインを飲む人のためにある。」と語るドーガ氏はビオトープ[※]を重視し、“ドーガスタイル”にはめ込むのではなく、畑の自然な状態と個性を重んじたワイン造りを理想としています。また、時にはパッケージやマーケティングなどのアドバイスを求められるなど、多彩な能力を発揮しています。

※ 生物群集が生息する環境条件を備える地域。生物群の生息場所。

ドーガ氏においては、畑のみならずそこで働く人間も含めその地域固有の一生態系と考え、環境を破壊せずに共存し永久的な継続を理想としています。